

4. 「共同充てん・共同配送実施事業者の合理化実態調査と共通フォーマットの有用性に関する調査」調査結果概要図

(実施者:財団法人エルピーガス振興センター)

【調査目的・内容】

LPガス業界は、LPガスの流通の合理化・効率化を早急に実現することにより、消費者の要望に応えることが求められている。そのため本調査では、共同充てん・共同配送を実施した事業者を対象に、合理化実態・効果を検証、当センターが開発した共通フォーマット(情報データ交換)を用いたモデルを提示した。

共同充てん・共同配送実施事業者に対する合理化実態調査

共同充てん・共同配送を実施した事業者に対してアンケート調査を実施。あわせて、共同化モデルとなる事例を選定し、専門部会委員によりヒアリング調査を実施。

業界標準としての共通フォーマット確立と普及促進に向けた実証試験調査

「バルク・シリンダーの共同充てん・共同配送のための共通フォーマット」の汎用性の向上と普及促進のための実証試験を実施。

【調査結果】

共同充てん・共同配送実施事業者に対する合理化実態調査

共同化事業が軌道に乗るためには、関係する事業者が皆メリットを享受することのできる“Win-Win(利害関係者がともに利得を享受できる状況)”の関係を構築することが必須である。

特に、配送業務の合理化に取り組むことができずにいる事業者からは、合理化によるメリットが容易に享受できないとの意見が聞かれた。共同化事業によって“Win-Win”の関係を構築するため、合理化・効率化に向けた不断の努力を続けることが必要である。

共同化事業の推進に向けて、経営層による真摯な協議と同様に、作業員との意見交換や共同化に向けた地ならしも積極的に推進していくことが望まれる。

情報システムの共通化やバーコードの統一化には、多くの費用と労力を必要としていることから、検討段階より時間をかけて協議することが望ましい。また、費用と労力の節減のため、業界としての標準仕様をあらかじめ策定しておくことも有効である。

業界標準としての共通フォーマット確立と普及促進に向けた実証試験調査

実証試験において、LPGC共通フォーマットに関する特記すべき問題は発生しなかった。LPGC共通フォーマットマニュアル書を基にコンバートプログラムを作成することが可能であり、共同化のための協議時間が大幅に短縮することが可能であることが実証できた。

しかし、LPGC共通フォーマット及び運用の手引きは、一部改良を行なった方が、多くの事業者に対してより使いやすくなると判断された。

コンバートプログラム作製コストは一概にいくらであるとは言えないが、今回実証試験のために作製した検針結果データ送受信と配送結果データ送受信のコンバートプログラムの1ファイル当たりの平均コストは、導入費用を含めて約35万円であった。

【課題・対策】

共同充てん・共同配送と共通フォーマット普及の手法検討

共同充てん・共同配送計画を推進するために

共同化計画は、関係する事業者の経営層による意識醸成を図るとともに、相互の理解を深め、共通の理念と目的に向けて一体となって取り組んでいくという意味を明らかにすることから始めるべき。経営層が揺るぎない意思を明確に示すことにより、計画の具体化や展開の際に障害なく進めることが可能となる。

共同化を実現している事例では、早い段階で配送業務までの共同化実施を決定している場合が多いことから、関係事業者の経営陣は、早期に充てん・配送業務まで共同化する旨の基本合意を結ぶことが望ましい。

LPGC共通フォーマット普及のために

LPGC共通フォーマットの普及を図るため、事業者に対しLPGC共通フォーマットに関する理解の浸透を促す必要がある。そのため、(財)エルピーガス振興センターは、行政機関や他の業界団体とも連携して、LPGC共通フォーマットに関する情報提供や普及活動を積極的に展開して理解の浸透を図る。行政機関や他の業界団体に対しては、LPGC共通フォーマットに関する情報提供・普及活動を支援することを期待する。